



<高学年授業実践>

①授業公開の様子

- ・6年生 単元 「比」
- ・授業者： 札幌 靖大 教諭（江別市立対雁小学校）
- ・本時の目標：比の意味と表し方を理解する。

比の相等について理解し、比の性質を用いて、問題を解決することができる。

本時の様子

過程	学習の流れ (◎発問 ○活動 ・子どもの反応)	留意点
つかむ	<p>○前時までの学習の想起をする。</p> <p>○本時の問題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>問題</p> <p>札幌先生は、校歌ボードの大きさが気になりました。 校歌ボードの縦の長さはどのくらいでしょうか。</p> </div> 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物を確認しながら全体でふり返りをする。 ・校歌ボード画像①掲示
みとおす	<p>○課題の提示をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>課題</p> <p>写真から実際の長さを求める方法を考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真の画像②掲示
かんがえる	<p>◎言葉の比の式を作ってみましょう。</p> <p>○自力解決に取り組む。</p> <p>◎考えた比の式を交流し、答えを求められそうな比の式を班で4種類考えましょう。</p> <p>○グループ交流①</p> <p>◎言葉の比に数値を入れて答えを求めましょう。</p> <p>○自力解決に取り組む。</p> <p>◎グループ交流②</p> <p>○全体で交流する。</p> <p>◎言葉の式を見て、気付いたことはありますか。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を選択し、比を作ることに注目させる。 ・作った比の式を交流し、どのような比の式を作ればよいかを話し合わせる。 ・4つの比の式のうち、一つを担当して答えを求めさせる。
つたえ合おう	<p>◎言葉の式を見て、気付いたことはありますか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>まとめ</p> <p>実際の写真の対応する長さを使って等しい比を作れば求めることができる。</p> </div> <p>○練習問題</p> <p>校歌ボードの横の長さを求めましょう。</p> <p>写真では、横の長さは6.5 cmです。</p>	<p>☐ 多様な考えを比較したり、検討したりする。</p> <p>☐ 写真の中の長さ、実際の長さの比を用いて、求めたい長さを調べる方法を考えている。</p> <p>☐ 比のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとしている。</p>
まとめる		
ひろげる		

②授業分科会での協議内容

- ・本時の問題設定や比の必要性を感じる課題について。
- ・言葉カードを用いたグループ交流について。
- ・集団検討について。

③成果と課題

- 札幌先生の熱意を感じる授業であった。前向きに取り組む姿勢を見習いたい。子どもたちも一生懸命に課題に取り組んでいた。
- 既習事項が丁寧に掲示されており、自力解決に役立った。
- ノート指導が徹底され、算数的表現を使った表現がしっかりなされていた。
- △問題で使用した写真の情報量が多いのではないかと感じる。情報を選択することが大切だと感じる。
- △問題の写真は手元に置いて、子どもたちが見て、吟味できる状態の方がよい。
- △「比が使いそう」 という方向性を示せばよかった。
- △教科書では、過去に戻れない問題であったり、課題解決に向けての方向性が示されていたりする。したがって、教科書の意図を汲み取った問題と課題を設定するべきである。
- △目標が言葉の比を作るものなのか、等しい比を作るものなのかが不明瞭だった。どちらかに絞り、授業を展開すべきだった。

(文責 阿部 真也)